

## 第39回 宇宙産業・科学技術基盤部会 議事要旨

1. 日 時 平成30年5月28日(月) 15:00~17:00
2. 場 所 内閣府 宇宙開発戦略推進事務局 大会議室
3. 出席者
  - (1) 委員  
中須賀部会長、松井部会長代理、青木委員、下村委員、中村委員、  
竝木委員、薬師寺委員、山崎委員、渡邊委員
  - (2) 事務局(宇宙開発戦略推進事務局)  
高田事務局長、行松審議官、山口参事官、須藤参事官、高倉参事官、  
佐藤参事官
  - (3) 関係省庁等  
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課長 谷 広太  
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課宇宙利用推進室長 庄崎 未果
4. 議事要旨 (○:質問・意見等 ●:回答)
  - (1) 国際宇宙探査に係る検討状況について  
資料1に基づき文部科学省から説明を行った。その後、以下のような議論が行われた。
    - 国際宇宙探査の枠組みの議論はどのような国々と進めているか。
    - 国際宇宙ステーション計画での政府間協定(IGA)の参加国との間で議論が進んでいる。
    - IGA締結時とは世界の状況で異なるところがあるので、我が国にとって有利になるように進めて頂きたい。
    - 月軌道プラットフォームゲートウェイ計画(LOP-G)に向けては、技術的な仕様の調整と権利義務等の枠組みの調整が並行して進むものと思われるが、国内ではどのように議論を進めていくか。
    - 技術面ではJAXAが中心に検討を進めていくが、参加のあり方についてはJAXAと文部科学省で検討を行い、宇宙政策委員会の探査小委員会や宇宙産業・科学技術基盤部会で議論いただきたいと考えている。
  - (2) 宇宙科学・探査の今後の推進方策について  
資料2に基づき宇宙科学・探査小委員会の座長である松井部会長代理から説明を行った。その後、以下のような議論が行われた。
    - 従来の理学・工学的視点だけでなく政策的視点を入れることで宇宙科学・探査の推進体制はどのように変わるのか。

●今後の宇宙科学・探査の予算・人員・体制については、JAXAの宇宙科学研究所に具体化する検討を依頼しているところ。今後、宇宙科学・探査小委員会にてご報告頂く予定。

○宇宙科学・探査分野は、民生分野と比べても観測精度や感度の向上などに大きな努力をされている分野と理解しており、得られた技術はさまざまな分野を波及させることが出来るのではないかと考えている。科学成果だけではなく、より広い視野をもって取り組んでいただきたい。

○宇宙科学・探査の意義に踏み込んだ重要な見解が提出されたと理解している。経済界としても積極的に協力していきたい。

### (3) 調達制度の在り方の検討について

資料3に基づき内閣府から説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○コスト見積もりやリスク算定をシステムチックにすることで、手間やコストが増加する可能性がある。アメリカでは契約部門に千人規模が配置されているなど日本との体制面の差にも言及されたが、コスト見積もりやリスク算定に手間がかかりすぎないように注意が必要と思われる。

○産業振興の観点から、新規参入やベンチャーへの配慮が必要ではないか。  
●新規参入やベンチャーの契約については、JAXAが既に取り組を進めているところと理解している。

### (4) 中間とりまとめについて

資料4および工程表に基づき内閣府から説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○工程表25番「宇宙科学・探査」、工程表26番「国際宇宙ステーション計画を含む有人宇宙活動」、工程表27番「国際有人宇宙探査」の3項目は重要な局面であると考えている。今後の議論の道筋を立てるべく検討を進めて頂きたい。

○工程表38番「調査分析・戦略立案機能の強化」は中長期的に重要な取組と理解している。今後どのように進めていくか。

●日本にはアメリカのように大きなシンクタンクがあるわけではないが、リモートセンシングや測位など、個別の分野ごとに体制を検討したい。

○工程表11番「その他リモートセンシング衛星開発・センサ技術高度化」

でライダー観測が出てきた経緯はなにか。

- ライダー観測は、昨年度の「調査分析・戦略立案機能の強化」の取組で意義が確認されたとともに、研究者組織でも重要視されていたことから、JAXAの中で以前から基礎的な研究はされてきたところではあるが、力を入れるべき分野として芽出しさせて頂いた。
- 工程表13番「技術試験衛星」と工程表38番「調査分析・戦略立案機能の強化」に関連して、将来に向けて通信・放送衛星の在り方を検討するコミュニティを維持することが重要と思われる。

(5) その他

資料5に基づき内閣府から説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

- パラダイムシフトが起きるためにはロケット側にも技術的なブレークスルーが必要と理解した。
- 引き続き世界の動向に留意が必要と思われる。

以 上